



PIARC活動報告会
(2025年12月15日)



TC 2.5 コネクテッドと自動運転の モビリティのための道路インフラ

- 委員：中川 敏正（国土技術政策総合研究所 高度道路交通システム(ITS)研究室長）
- 委員：平岩 洋三（東京大学生産技術研究所 ハーモニック・モビリティ研究センター 准教授）
- 連絡委員：北城 崇史（道路局 高度道路交通システム(ITS)推進室 課長補佐）
- 連絡委員：松原 朋弘（PIARC事務局 テクニカルアドバイザー）
- 本省窓口：竹下 正一（道路局 高度道路交通システム(ITS)推進室長）

本日の説明内容

- TC 2.5の活動状況
(調査研究内容、最終成果物、TCの開催状況)

- 今後の活動方針
(日本としてのミッション、国内外での活動)

- 今後の予定



TC 2.5の活動状況

TC 2.5の調査研究内容

○ コネクティド、自動運転のモビリティのための道路 【WG1】

コネクティド、自動運転のモビリティを実現するために道路が提供すべき物理インフラ、デジタルインフラを調査研究

○ 自動運転とインフラ 【WG2】

自動運転が道路インフラに与える影響、物理インフラ／デジタルインフラの要件、自動運転による道路管理者と行政にとっての課題を調査研究

○ 公的機関と道路管理者のためのビジネスモデルと制度 【WG3】

コネクテッド、自動運転のモビリティのためのビジネスモデルや道路インフラの制度(枠組み)を調査研究

TC 2.5による最終成果物

○ 最終報告書(WG1、WG2、WG3) 【作成時期:2027年4月】

- コネクテッド、自動運転のモビリティの国際動向
- 各WGでの調査研究成果
- 低中所得国へのコネクティッド、自動運転のモビリティのための道路ネットワークの適用

○ ファクトシート(WG1、WG2) 【作成時期:2026年9月】

各国の模範的な事業・取組について、事業・取組の概要、効果・便益、成功要因、他国への展開可能性等を取りまとめ

○ 文献調査(WG3) 【作成時期:2026年6月】

第3回TC会議への参加(2025年6月・ウィーン)



○ 会場

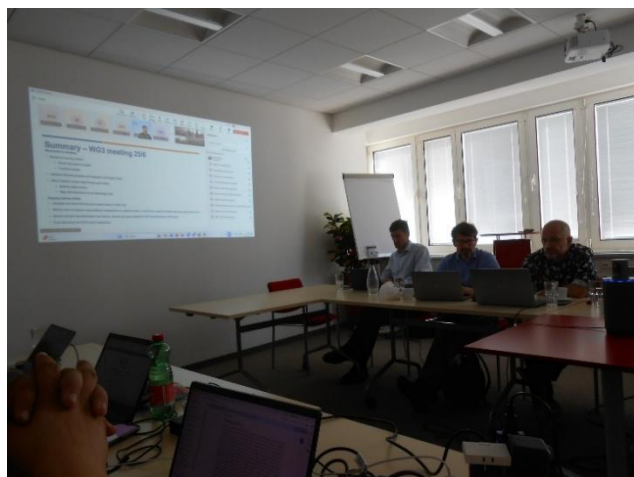
市内中心部のaustriatech事務所で開催



○ 全体会議(対面)

TC会議は大部分が対面であり、参加者は15名。

日本以外では、欧州12名、南アフリカ1名



○ 全体会議(ハイブリッド)

ラップアップはハイブリッドでの開催となり、今回の会議での成果が報告



○ 日本からの発表

東京大学で実施している走行空間実証実験について、話題提供と議論

第3回TC会議の成果

○ 「自動」、「コネクテッド」、「協調」の定義の明確化

- 自動(Automated) : 車両の制御が外部の電子データに基づいてなされる状況
- コネクティッド(Connected) : 路車間通信、車車間通信が可能となる状況
- 協調(Cooperative) : 自動(Automated)がコネクティッド(Connected)により可能となる状況

○ 道路管理者に対するアンケート調査の実施

「自動運転社会での道路管理者の役割」、「自動運転のための道路インフラの検討・整備の現状」について、各国の道路管理者にアンケート調査を実施することを決定し、調査票(案)を審議

○ ファクトシートの候補事業の提案

各国の模範的な自動運転の事業・取組をファクトシートとして取り纏めることを決定
(各国から候補事業・取組を最低1つ以上を提案)

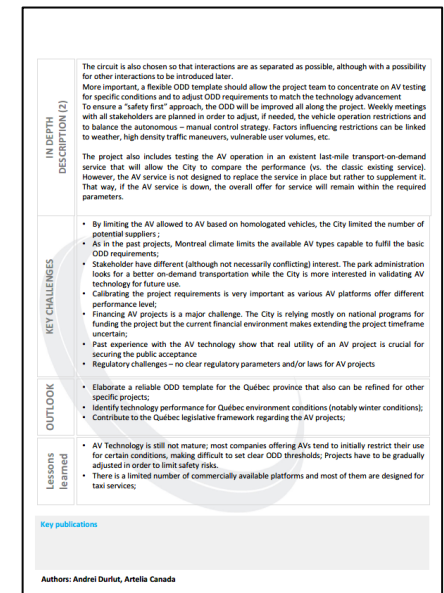
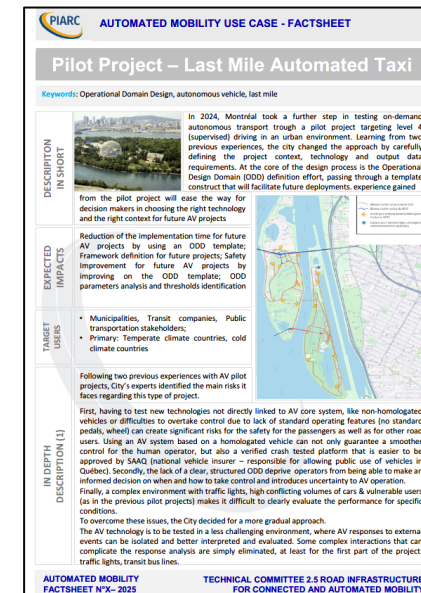


図 ファクトシート(イメージ)

第4回TC会議への参加(2025年11月・チュニス)



○ 会場

地中海沿いのホテル
(El Mouradi
Gammarth)で開催



○ 全体会議(対面)

TC会議は大部分が対面であり、参加者は9名。

日本以外では、欧州(6名)、カナダ(1名)、南アフリカ(1名)



○ 全体会議(ハイブリッド)

ラップアップと一部の議題はハイブリッドでの開催となり、今回の会議での成果が報告



○ TC 2.4との情報共有

TC 2.4(ITS)との合同会議が開催され、各TCでの調査研究の進捗状況が報告

第4回TC会議の成果



○ ファクトシートの提案事業の承認

日本から提案した全ての事業※について、ファクトシートの対象事業とすることが承認。
また、未提案国に対して年内に提案を求めることを確認。

＜日本からの提案事業＞

- ・ 高速道路での自動運転トラック実証実験
- ・ 一般道での路車協調システム実証実験
- ・ 一般道での走行空間実証実験

○ 道路管理者に対するアンケート調査票の確定

各国への道路管理者へのアンケート調査票を確定

※ 調査開始時期は、2026年1月下旬

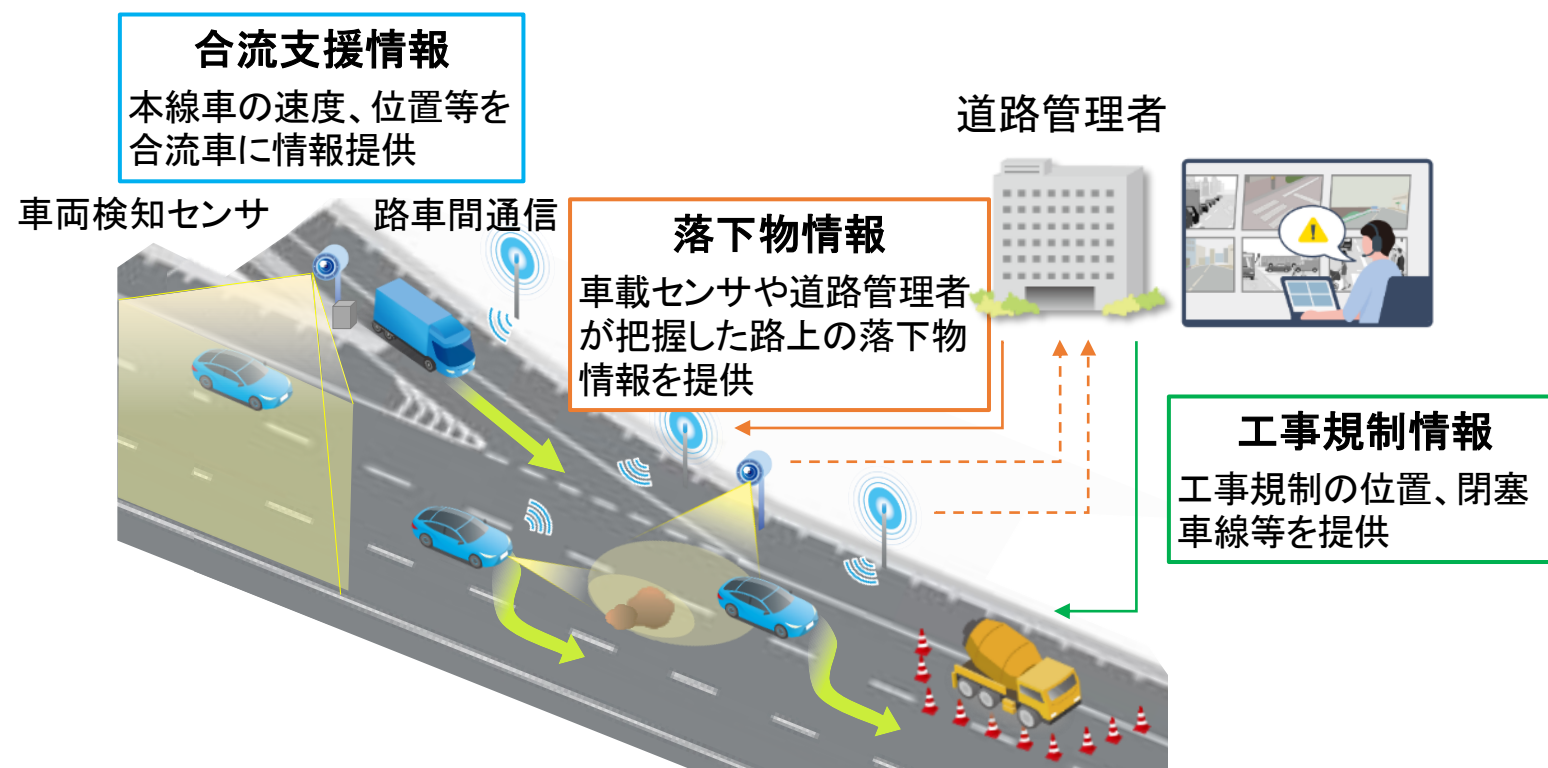
○ 最終報告書の執筆担当者の確定

最終報告書について、各節ごとに執筆担当者を確定

※ 第5章(WG2が担当)が中心

日本からのファクトシート提案事業①

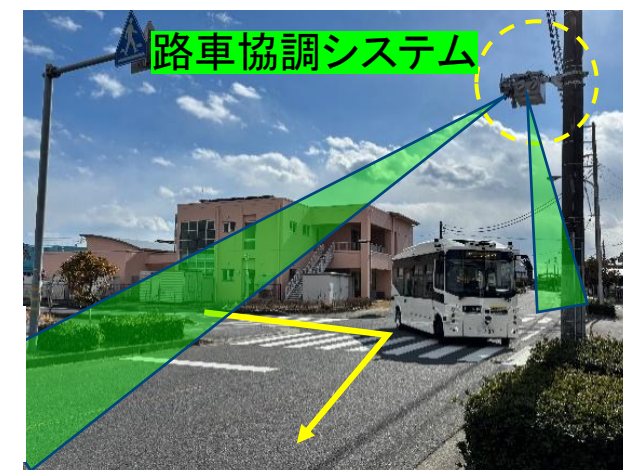
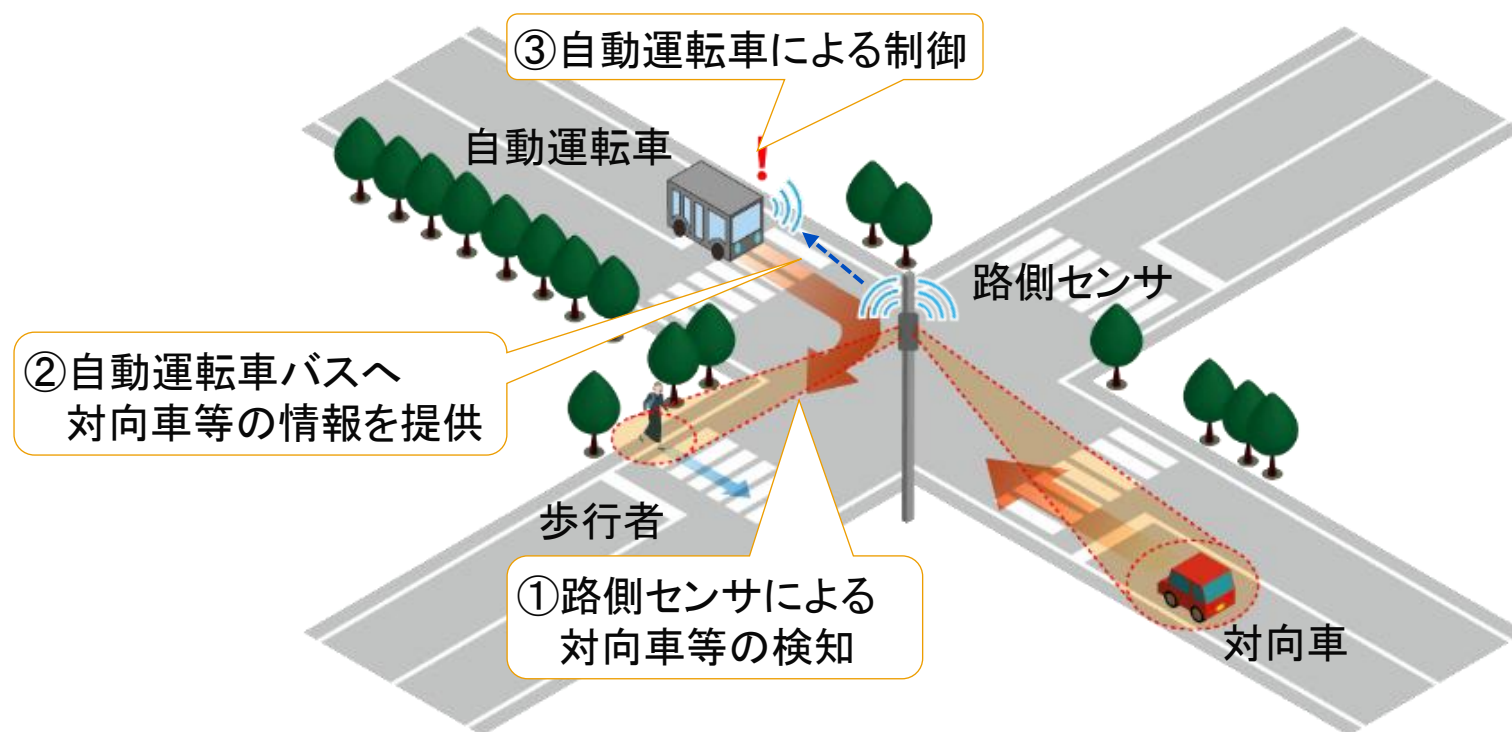
■ 高速道路での自動運転トラック実証実験



⇒ 自動運転トラック向け路車協調システムの技術仕様作成の取組を最終報告書に反映予定

日本からのファクトシート提案事業②

■ 一般道での路車協調システム実証実験

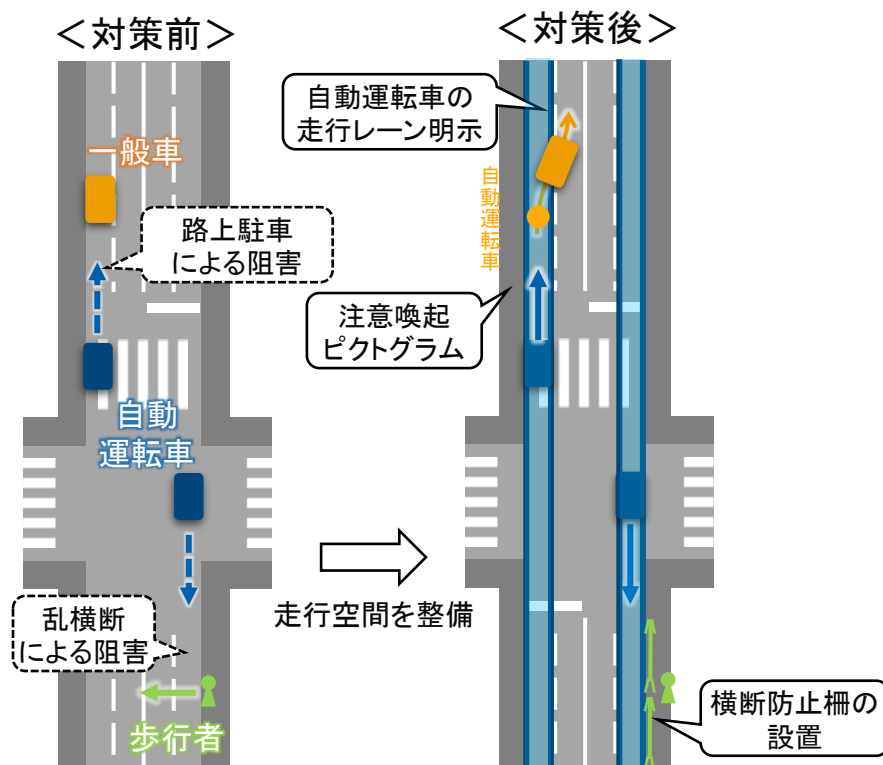


⇒ 路車協調システムの技術基準作成の取組を最終報告書に反映予定

日本からのファクトシート提案事業③

■ 一般道での走行空間実証実験

○ 走行空間の必要性



○ 走行空間(ラバーポール)の設置



⇒ 走行空間のガイドライン作成の取組を最終報告書に反映予定

第4回TC会議への参加(ワークショップ)



■ PIARCとチュニジア建設・公共事業協会が共催し、ワークショップを開催



○ 開会挨拶

チュニジア建設・
公共事業協会の
Jamel Ksibi会長



Japan's Initiatives to Implement Level 4 Automated Driving with Cooperative ITS

Toshimasa Nakagawa, Ph.D.

Head, Intelligent Transport Systems Division
National Institute for Land and Infrastructure Management,
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Japan
Workshop on Smart and Automated Road Networks:
Operations and Connectivity

12 November 2025 Tunis - Tunisia

World Road Association - Association mondiale de la Route - Asociación Mundial de la Carretera - www.piarc.org



○ 日本からの発表

国総研で実施中の協調
ITSによる自動運転の研究
開発の取組を発表



○ 参加者との議論

各セッションごとに発表
終了後、発表者と会場参
加者(約90名)で議論



○ 会議終了後

PIARC事務局 ST2テクニカルア
ドバイザーのKaouther Machta氏
(チュニジア出身)、チュニジア政
府設備・住宅省のMohamed
Zmerli氏との記念撮影



今後の活動方針

日本としてのミッション

- 我が国の道路インフラ支援による自動運転の施策、研究開発の取組を最終成果物に反映する。
 - ⇒ 今月中にファクトシートのドラフトを提出
 - ⇒ 基準・ガイドライン作成の取組を最終報告書に記載
- 自動運転のための物理インフラ、デジタルインフラ等に関する海外の最新事例を収集する。
 - ⇒ 自動運転のためのデジタルインフラの事例を収集
 - ⇒ 自動運転の実証事業の評価の事例を収集

国内外での活動

○ 国内・国外における情報発信

国内外での会議、学会等での情報発信を行う。

- 雑誌「道路」に報告を掲載済
- 第23回ITSシンポジウム2025で論文を発表予定
- 第32回ITS世界会議(韓国)で論文を発表予定

○ 国内関係機関との連携・協力

自動運転インフラ検討会や次世代ITS検討会との連携・協力を図る。

○ バンクーバー大会への論文投稿

高速道路での自動運転トラック実証実験や走行空間実証実験について、バンクーバー大会に論文を投稿予定



TC 2.5の報告
(雑誌「道路」(2025年10月号))



今後の予定

今後の予定(TC会議の開催予定)

時期	予定
2026年前半	第5回TC会議(開催地未定)
2026年後半	第6回TC会議＋国際セミナー(開催地未定)
2027年前半	第7回TC会議＋国際セミナー(開催地未定)
2027年10月	第28回世界道路会議(バンクーバー大会) ※ セッション開催予定

※ TC 2.5は新設のTCであるため、シャンベリー冬期大会でのセッションは開催しない予定

ご清聴有難う御座いました